

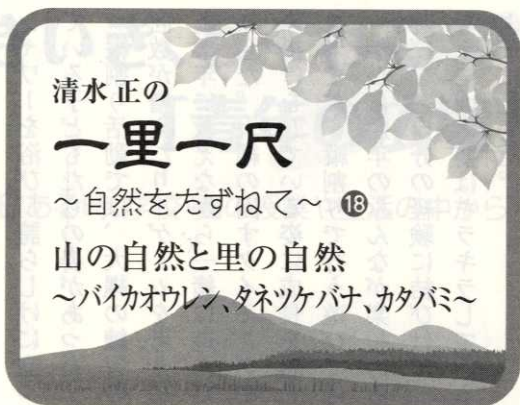
清水正の

## 一里一尺

～自然をたずねて～ 18

山の自然と里の自然

～パイカオウレン、タネツケバナ、カタバミ～



## ワクワク、ソワソワの春

今年の三月は気候が不順で寒い日が続いたり、梅雨かと思うほど毎日雨が降りました。

四月に入ってから少し陽ざしが  
出て暖かい日が（いや暑い日かな  
?!）続きました。そうなる自然

の力はすごいものであつという間に桜の花が咲き出しました。雑草と呼ばれる道端の草も次々と開き出します。何もそんなに慌てなくてもいいのにと思ったりするので

すが、それぞれの事情があるのでしよう。私も負けじとソワソワし

出しました。あそこにはこれが咲

き出しただろう。どこそこには咲

いているのではと落ち着きがあり

ません。今日も筆が進まないの

近くに道くさ散歩に行きました。

毎年気になっている花です。二〇

四号（二〇二〇年一月号）でも

詳しく掲載したイヌノフグリです。

すでに二回行っているのですが開

花が見られていません。これだけ

気温が上がれば咲いているとふん

で出かけました。二株咲いていま

した。三mmほどの小さな薄桃色の

花です。今や環境省でも絶滅危惧

Ⅱ類（VU）に指定されています。いつ消えて無くなっても不思議が無いので、より一層愛おしさが増す花です。

## 山の上にも春の兆し

翌日、八瀬から西塔・横川・日

吉大社と山道を歩きました。こち

らは標高が高い分、サクラは堅い

蕾でした。木々の芽吹きや林床の

花たちの開花はまだまだという感

じでした。とは言うものの気の早い

ものも幾つか咲き出していました。

特によく見かけたものはクスノキ

科クロモジ属のアブラチャンです

た。全体枯れ色の山野に萌葱色の

小さな花を枝のあちらこちらにつ

けて、「春が来ていますよ」と告げ

んばかりに開花していました。こ

の時期に同属のダンコウバイとい

う木を見かけるのですが、この日

歩いたところでは見かけませんでしたが。ダンコウバイの花も早春に咲く花としてよく知られています。そしてアブラチャンともよく似ています。違いを探るならダンコウバイの花は赤味がかつた黄色で花が少し大きいと言えます。細かいことを言えばアブラチャンには短い花柄がありますがダンコウバイにはないということです。いずれも葉よりも花が先に開きます。だから、冬芽（冬を越して花や葉になる芽）では花芽が早くふくらみ、



アブラチャン

葉芽は小さいのも特徴です。

物事には順序があり姿形にも現れるのですね。

山に行

く人なら早春には必ず見かけて春を感じるキブシも、穂状の薄黄色の花をまるで舞妓さんの花簪のようにぶら下げています。そのそばには枝先に穂状の雄花をつけたオバヤシヤブシやハンノキがありました。こちらは花びらもなく色合いも褐色やくすんだ緑で目立ちません。花粉が飛ぶ頃少し黄色みを帯びてわかるようになります。でもこれは花粉症の人にとっては花粉症の原因になるため大変です。



キブシ

## 陽だまりに咲くスミレたち

山道の日当たりの良い草地や崖地の斜面に出会うと少しの暖かさや明るさで敏感に反応した草花たちが花を咲かせます。まず最初に現れたのはタチツボスミレでした。ありふれた花ですが、薄くも濃くも無い青紫色がすがすがしい、それに崖の上に株になって咲いている物は青空を背景にコントラストがよく被写体にもってこいです。小型でよく似たコタチツボスミレ。



タチツボスミレ





シハイスミレ

葉裏が紫のシハイスミレなどが道端を飾ってくれています。

## 白い花の競演

スギやモミの木などの半日陰の林床では至るところミヤマカタバミが咲いていました。ここ比叡山ではエイザンカタバミとも言われます。横川の山域に入るとお目当てだったバイカオウレンが見られるようになりましたが、五年前の記憶では至るところが白くなるほどのすごい群落だったと思っ



バイカオウレン

ているのですが、あまりにもまばらに驚きました。しかし林床にはびつしりと葉が見える、時期が遅かったようで。それでも妖精のような可愛さで薄暗い林床を明るく照らしてくれていました。この花も今では朝



ミヤマカタバミ



オオケタネツケバナ

ドラの「らんまん」のおかげで、かなり一般的に知られるようになりました。ちょっと珍しいものを見ました。私にとつては初見です。写真を撮って帰り調べたところオオケタネツケバナと言われるものようです。いやあ、タネツケバナも奥が深い。昔はタネツケバナしか知りませんでした。山野を歩いていると随分たくさん種類があるんですね。皆さんも図鑑があればタネツケバナと調べて見ると幾つかの仲間が出てきます。知

らないものを知るということは実に面白いです。自分自身が如何に何も知らないかということをお教えを掻き立ててくれます。植物は(も?)奥深く多様性に富んでいます。

### みちくさ散歩を楽しもう

タネツケバナとかカタバミは皆さんも良く聞かれたことがあると思います。どちらにも人里に生え、古くから人々の生活に関わってきたものです。話のついでにこの二つの種で、自分達の家の周りによく見られるものを見に行ってみませんか。最近ではNHK教育TVの「趣味どきくみちくさ散歩」などという番組もあるぐらいですから、気軽に出版してみましよう。タネツケバナでよく見かけるのは

在来種のタネツケバナ、外来種のミチタネツケバナと近縁種のクレソン(オランダガラシ)などがあるでしょう。タネツケバナはアラナの仲間ですから花びらは四枚で十字の形に広がります。花色は

白。種ができる長い棒状のものがつんと立っているのわかりやすいです。葉は鳥の羽根状です。耕地などの湿った所に多いです。最近勢力を広げているのがミ

チタネツケバナ、「THE 道草」という感じで、道端の隅や植え込みなど所構わず咲いています、在来タネツケバナとよく似ています。花の時期にも根生葉(根際にスカートを広げたような葉)を持っているのが相違点です。

クレソンは肉の付け添えとして料理にも出るのでよくご存知だと思います。栽培ものの逸出で町中

の用水路や小川などに生えています。ついでにタネツケバナの名前の由来はと言うと「種付けを始める頃に花が咲くから」と言われています。まさに人の生活と共にある植物と言えます。

### カタバミって面白い、 そして奥深い

比叡山で見た白いカタバミはミヤマカタバミと言って山に生育しますが、人里には皆さんがよく見られるおなじみの黄色い花のカタバミがあります。この黄色いカタバミを見ていくと中に葉が赤く、花の中心部分が赤いカタバミを見ることがあるとあります。これはアカカタバミという品種です。中には薄く赤が緑に懸かった葉を持つものもあります。同じ種の中にも変異があるのですね。こうして見て



いるとカタバミと言って馬鹿には出来ませんし、面白いですね。葉はハート型のような小葉が三つ集まって一つの葉を作っています。その小葉を縦に半分に分けてみると、葉の先をかじったような感じに見えませんか。片側をかじっているようなので「片喰み」（かたばみ）と良く言われます。これを見つけたら子どもたちに（勿論大人もいいですよ）この葉っぱで十円玉を磨こうと言って、古い十円玉を出してカタバミの葉で強くこすりまわす。汁が出れば出るほど十円玉はきれいになってびかびかになります。子どもたちの目は輝き驚きます。それぞれがカタバミの葉をとって同じことをやります。きれいになると嬉しいもので笑顔で「びかびかや」などと言って喜びます。もう子どもたちはすっか

りカタバミを覚えました。カタバミマジックです。でもこれだけでは芸がありません。

葉っぱをかじらせると「酸っぱい」と言ってくれます。そうです、「この酸っぱいものが十円玉をきれいにしてくれたんだよ」と言っても試してみます。「酸っぱい葉は他にないかな」というとお母さん達がギンギシやスイバ、イタドリなどと言ってくれます。近くにあればそれで試すと同じ結果が出ます。その葉をかじると矢張り酸っぱいと言うことで納得です。私たち人間にとっては少し酸っぱい程度ですが小さな虫には毒で、虫から自分を守るための植物の知恵です。皆さんも孫や子、生徒さんなどと試してみませんか。

